

たいわ 町議会だより



宮城大学のお姉さんとピース！
(子どもの本展示会「まほろばホール」)

6月定例会・臨時議会質疑

2～5ページ

産前・産後・子育てヘルパー事業の創設を

一般質問者13名

8～20ページ

なじよなったあの提言は、議会のうごき

20～21ページ

元気で明るい大和町



(大和町保育所)

6月定例会

(会期 6月14日～17日)

内容

補正予算、人事案件を慎重に審議しました。
一般質問は13人の議員が、町の対応や考えを問いただしました。

全議案可決 6月定例会での審議内容

補正予算	結果	賛:反
一般会計	可決	17:0
国民健康保険特別会計	可決	17:0
介護保険特別会計	可決	17:0
その他	結果	賛:反
固定資産評価委員の選任	同意	16:0
人権擁護委員の選任	適任	17:0

一体100万円

議員 まほろばホールに100万円のブロンズ像を購入するが、どこに展示するのか。

生涯学習課長 2階の佐藤忠良ギャラリーを予定している。

議員 ギャラリーへの入館者が年間230名と少ない。

もっとPRしては。

生涯学習課長 忠良氏の追悼展として、幅広くPRしていく。

被災児童生徒の心のケア

議員 メンタルケア補助員は、どういった方を予定しているのか。

教育総務課長 子供の悩みなどを聞いて対応する仕事なので、保育士や教員の資格を持った方を優先に選考しなければならぬと考えている。

議員 被災した児童を、どうケアするのか。

教育総務課長 被災を受けたことを思い出させないように、いくらかでも子どもたちの心が和らぐような対応を取っていきたい。

皆と同じにしてあげて

議員 運動会で、違う運動着を着ている子どもがいた。被災地から来た児童だとすぐにわかる。子どもの気持ちを考えては。

教育総務課長 被災児童への運動着などは、日本ユニセフ協会の協力をいただき配付している。



佐藤忠良ギャラリー



震災なんかに負けないぞ!



(吉田小学校)

ガレキ処理は地元業者へ

議員 大震災によるガレキ4500トンを民間委託することだが、どう決めるのか。
環境生活課長 町で競争入札を行う。

議員 仮復旧を、地元業者に忙しい中でもやっていただいた。恩返しという気持ちで地元業者をお願いをしては。

副町長 指名入札と随意契約で相当の本数がある。地元業者のご協力をいただきながら、早い復旧を目指したい。

対応がなぜ遅い

議員 仙台市は国庫補助で半壊までの家屋の解体撤去事業をとくに進めている。本町では、なぜ遅れているのか。

環境生活課長 当初、津波被害の大きい地域と、内陸では取り扱いに違いがあった。その後、内陸であっても全壊、大規模半壊を国費で撤去しようということである。半壊の取り扱いは、要綱を整備し検討する。

議員 仙台市は市内の業者に指名している。本町でも町内の業者に平等に渡るようにしては。

環境生活課長 今後、協議する。



早期に処理を

情報を敏感にキャッチ

議員 国からの情報が遅れて入ってくるが、各課の課長もアンテナを高くし、いち早く情報を取り入れないと、後手後手に回ってしまふ。

町長 国の考え方、示し方の情報が遅い。今回の件も、沿岸部はどうしても片づけなければならぬので、仙台市は先行して半壊までやった。本

町の場合は、そういった対象ではないので、少し遅れた。被災された方に対し申しわけなかったと思っている。これまで後手になったところもあるので、しっかりとやっていきたい。

どうやって決めるの

議員 解体業者をどう決めるのか。

副町長 それぞれの個人の住宅なので、被災された方の意向を聞き、参考にしながら施工業者を決定したい。

議員 実際、大きく壊れたのに半壊とみなされた家屋もある。大規模半壊と半壊の差は。

環境生活課長 被災家屋の状況があるので、申請された被災者の方から内容を伺い、調査して審査する。

基準は同じか?

議員 松島町は損壊家屋等の処理で、建物が全壊・大規模半壊・半壊・さらに事務所・店舗・作業場、ブロック塀などとしている。本町は他の自治体と範囲が違うのではないか。

町長 各市町村によって独自の上乗せをしている所もある。

臨時議会

5月27日に臨時議会が開かれ、条例の改正や補正予算などの審査を行い、全て可決しました。

条例の改正

国保税が上がります

地方税法施行令の改正により、課税額が変わります。

一時金が増えます

出産育児一時金の支給額が、35万円から39万円に増えます。

町税が下がります

東日本大震災で被害を受けた納税者に対し、町税の減免措置をするため条例を制定しました。

被災者に支援

災害援護資金貸付の特例措置が講じられるため、改正するものです。

災害復旧関連事業費 一般会計補正は 9 億 9607 万円

大災害を振り返って 課題を洗いなおせ

専決処分	結果	賛：反
国民健康保険税条例の一部改正	承認	17: 0
国民健康保険条例の一部改正	承認	17: 0
災害被害者に対する町税の減免条例	承認	17: 0
介護保険特別会計補正予算	承認	17: 0
一般会計補正予算	承認	17: 0
条 例	結果	賛：反
税条例の一部改正	可決	17: 0
災害弔慰金の支給条例の一部改正	可決	17: 0
補正予算	結果	賛：反
一般会計	可決	16: 1
下水道事業特別会計	可決	17: 0
農業集落排水特別会計	可決	17: 0
戸別合併処理浄化槽特別会計	可決	17: 0

災害被災者に対する町税の減免条例関係質疑

申請を簡単に

議員 本町ではどれぐら
いの該当者がいるのか。
税務課長 全壊は5月
20日現在で35棟である。
今回の減免対象は23年
度分で22年中の収入か
ら所得が出るので、まだ
はつきりせず、何世帯か
はつかめていない。
議員 該当する方の方
ち、何名が申請を出して
いるのか。
税務課長 30数件であ
る。

議員 申請の流れは。

税務課長 固定資産税
の減免のお知らせをし
ている。被害にあった
家屋や土地の崩壊した
写真を持って税務課に
申請していただきたい。

議員 写真は、調査など
で既に確認しているの
に、再度提出する必要が
あるのか。

税務課長 リ災証明書
の調査で、住家の把握は
しているが、それ以外の
物置などの調査はして
いない。そのため写真
が必要である。なけ
れば、こちらで調査に行
く。



税務課大忙し

一般会計補正予算関係 放射能の影響は

議員 「子ども達を外で
遊ばせていいのか」「野
菜は大丈夫か」と本町の
放射線量に対する不安
の声を多く聞く。放射
線の測定はしているの
か。

総務まちづくり課長
県南の市町村は、県から
放射能を測定する機械
が配布され、測定を行っ
ている。本町などの県
北は、まだ配布されてい
ないので要望をしてい
る。配布を受けたら、近
隣町村と歩調を合わせ
て測定結果を公表する。



おらいの野菜は大丈夫か

牧草地に行く道が

議員 林道高倉線の一部が崩落し、通行できなくなっている。奥に牧草地があり、「6月になったら草を刈らなければ、牛に食べさせることができない」と畜産農家が困っている。



職員の残業手当て

議員 震災だからといって全職員をただ残して待機させるのではなく、最小限度の人を確保し勤務させる体制にしては。

町長 時間外手当は満額支給ではなく、一部、振替休日にするなど職員の協力を得て対応した。必要最低限の人数は、今後の課題として考える。

集会所も破損

議員 地区の集会所も被災している。予算措置をどのように考えているか。

環境生活課長 地区の声を聞き、どれほど該当するのかわを確認し、6月補正に計上と考えている。

嘉太神入口にゴミ？

議員 嘉太神ダムに行く途中の旧道沿いの土地に、仙台から持ってきた災害ゴミが置かれている。町を通して土地を借りたのか。

環境生活課長 町を通しての一時仮置き場ということはない。

これでは牧草地に行けない

環境生活課長 環境GMと一緒に確認している。個人所有地なので、保健所と確認しながら指導していく。

発電機は必需品

議員 発電機5台を購入するが、設置場所と容量は。

総務まちづくり課長 小野小学校、宮床中学校、吉田教育ふれあいセンター、落合教育ふれあいセンター、鶴巣防災センターの5カ所を予定している。ディーゼル発電機で、容量は20キロワットアンペアと大きい。

町の手出し分はいくら

議員 被害のほとんどが、国の補助金でカバーされるのか。それ以外の部分がどれくらいあるのか。

財政課長 今後、国の査定を受け、補助になる部分が縮小されたり、災害復旧制度になじまないものは単独事業となる。

下水道事業特別会計関係質疑

マンホールの飛び出し

議員 今回の災害で、地中からマンホールの飛び出しがたくさんあった。

た。飛び出しを防ぐ工法は。

上下水道課長 液状化現象で、マンホールが浮き上がってしまう。土に添加剤を混ぜ固い土にするので、土質状態が変わり効果はあると思う。



浮き上がったマンホール

議員 停電によるポンプの停止で、汚水が滞留したが改善策は。

上下水道課長 流入の多い所はバキュームで対応した。マンホールポンプは水道管の一部という位置付けなので、その1カ所1カ所に自家発電装置などの非常電源を用意することは困難である。



碎石が飛んで危ない。ほこりもすごい

本工事を急げ

議員 鶴巣・落合の道路陥没がひどい。復旧を早くすべきでは。

都市建設課長 交通量が多い生活道路や通学路は、極めて重要な路線なので、優先的に復旧にとりかかる。



なしよなつたの？ あの提言は

議員が行う提言は、町政にどう反映されているのでしょうか。これまでの質問の中から一部ピックアップし、その後の経過を追跡してみました。

いまだに進まず 利用しやすい町民バスを

①堀籠日出子 議員 (H19年9月議会)

台数を増やしても利用者数は変わらない。次の課題を検討せよ。1. 屋根付き停留所を設置せよ。2. 時刻表の再検討を。3. 小中学生と高齢者は無料に。4. 鶴巣線を利府高校まで延長せよ。

町長

1. 制約があり、現時点での考えはない。
2. もう少し様子を見て検討する。
3. しばらく状況を観察する。
4. 利用している学生は1名だけなので、現行のダイヤで運行する。

②総務委員会代表質疑 (鶴橋浩之議員) (H20年9月議会)

通院等が終って帰る際、バス時間までの待ち時間が長い。帰りの時間も配慮しては。

町長

見直しを行い、利便性の高い運行に努める。

③平渡 高志 議員 (H21年6月議会)

乗車数が減っている。多くの人に利用してもらうため、無料にしては。

町長

利用促進に有効な手段だが、町民バスは町内全域を走っていないので、バスを利用する方とされない方との公平性が保たれない。

④伊藤 勝 議員 (H22年3月議会)

町民バスにノンステップバスや補助ステップバスを取り入れては。

町長

雪の多い所や、坂での運行は不向きである。地域性や利用者の状況を含め検討する。



利便性を高める

実現しました 旧農協跡地に保育園

H17年9月

H23年4月

質問

1億数千万で取得した土地を、いつまでそのまましておくのか。

答弁

整理、処分、方針を定め、計画的に対応する。

処理

民設民営の「菜の花保育園」が建てられました。



一般質問 「ここが聞きたい、これを言いたい」

町政を問う

13名の議員が、町長と教育長に質問



ほりごめ ひでこ
1. 堀籠日出子 議員
産前・産後・子育てヘルパー事業の創設について
他 1 件 (8 ページ)



さくらいたつたろう
7. 桜井辰太郎 議員
複式教育について
(14 ページ)



うずらはし ひろし
2. 鵜橋 浩之 議員
吉田川関連の震災について
他 2 件 (9 ページ)



たかひら としお
8. 高平 聡雄 議員
防災無線について
(15 ページ)



なかやま かずひろ
3. 中山 和広 議員
町営住宅の整備を
他 1 件 (10 ページ)



おおとも かつえ
9. 大友 勝衛 議員
東日本大震災で発生した災害
ゴミ処理について
他 2 件 (16 ページ)



うえだ はやお
4. 上田 早夫 議員
団地の高齢化対策
他 1 件 (11 ページ)



ふじまき ひろし
10. 藤巻 博史 議員
震災における福祉避難所について
他 1 件 (17 ページ)



ほりごめ ひでお
5. 堀籠 英雄 議員
黒川高校第二農場を幼児教育の場や貸農園に
他 1 件 (12 ページ)



まつかわ としみつ
11. 松川 利充 議員
地域防災計画について
他 1 件 (18 ページ)



いとう まさる
6. 伊藤 勝 議員
教育に新聞を「NIE」
他 1 件 (13 ページ)



あさの まさゆき
12. 浅野 正之 議員
東日本大震災関連について
(19 ページ)



ひらわたし たかし
13. 平渡 高志 議員
町職員・関係者は非常食自前で
確保を
他 1 件 (20 ページ)

妊娠・出産・子育てが 楽しいまちに

町長 子育て支援センターを計画



ほり ぐも ひでこ 議員
堀 籠 日出子

議員 近年は、子育てによる育児不安や孤立化などが増大し、社会問題になっている。また、児童虐待の危険性は、産後まもなくの時期が最も高いことから、産前・産後の子育て家庭への支援が重要である。本町は企業従業員の転入で、若い世帯の定住者が多くなってきた。しかし、見知らぬ土地での子育ては不安が大きい。子育てヘルパー事業を創設し、「子育てしやすいまちづくり」を進めてはどうか。

町長 子どもを安心してゆとりを持って育てるための環境整備は大変大事なことである。これまでも、新生児訪問相談・育児相談・妊婦健診の無料化などを進めてきた。

教育ふれあいセンターの整備を 町長 利用者の声を聞く

議員 教育ふれあいセンターは児童館、放課後児童クラブなど、子どもたちの健全育成の場として運営されている。空き教室は地域の方々が活動できる場としているが、利用できる状態ではない。地域のコミュニ



安心して出産・子育てができるといいね

ティーの場として活用できるようにし、さらには、災害時の避難所でもあることから、早急に教室を整理しては。
町長 吉田・鶴巣教育ふれあいセンターの教室の一部は、民具の文化財収蔵に利用している。今後は、地域の意見を反映した整備を行う。
また、災害時の避難場所としての機能が発揮できるよう検討する。

吉田川関連の震災被害は

町長 県と共に復旧に努める

議員 嘉太神ため池が老朽化に加え、今回の震災で漏水する状況となっている。渇水期の水不足が心配されるが、どの様に対応するか。

町長 嘉太神ため池が震災で洪水吐^{ぼけ}コンクリートの亀裂による漏水のため、水位を下げて管理している。県の災害査定で国災復旧事業に該当しなかった。県の指導で防水ポンド注入等、応急措置を行う。また、県による長寿命化のための改修調査を5年後としているが、年次を早める努力をする。

議員 吉田川上流から取水する八志田堰の上・下流部の法面崩落で、用水への土砂流入と増水時の堰管理に影響があるが、県・町・組合の協議や対応を急ぐべきだ。

町長 県土木に復旧依頼をしているが、組合との協議も考えていく。

議員 その他、吉田川の治水・利水、防災対応は。

町長 吉田川上流域での大雨時の水量増加が目立つことから、八志田用水路の整備や吉田川の河川改修を始め、防災対策に努める。

震災復旧事業契約の課題

町長 品質と工期確保に努力する



ひび割れ、水もれ、どうするの（嘉太神ダム）

農地・水事業への

対応は

町長 今年度は

取り組まない

議員 従来の農地・水・環境保全活動（19～23年）にあわせ、農業施設の長寿命化のための向上活動交付金制度（23～27年）が新設されたが、県及び本町の対応は。

町長 県では、現行の農地・水活動が23年度で終了することから、国から24年度以降の農地・水活動が継続されるのか、また、この新既事業への移行なのか等の問題もあり、23年度は取り組まなかった。

機材の調達等課題も考えられる。国の災害査定を早めるよう努力し、早期発注と工期設定や指名の工夫を行い、品質と工期確保を図る。

町長 県内の各自治体が数多くの被害を受けた状況から、資材調達でも数量確保や価格の高騰、工期の確保も困難が予想されている。町内の土木事業の登録事業者は21社、郡内は43社あり、労務者の確保や資材・

議員 本町でも一般会計、特別会計で20億円余りの復旧費を計上した。今回の災害復旧は被災自治体が同時期、しかも多件数の事業発注で資材調達や工期・契約手続等の課題も多いが対応策は。



議員 之 浩 橋 鷗



なかやま かつひろ 議員
中 山 和 広

町営住宅の整備を

町長 調査・検討する

議員 木造の町営住宅は大震災により72棟中45棟に被害を受けた。

築後40年〜50年経過し、老朽化が著しく、入居者の安全確保対策が必要である。建て替えも含め、町営住宅の在り方をどのように考えているのか。

町長 木造住宅は、経年劣化から入居者が退去後は取り壊しの措置をして来た。

今回、地震によるダメージから、入居者の安全を考えると速やかに解体撤去し、新たな町営住宅のあり方を調査したい。

議員 独り暮らしの高齢者は、孤独感、病気や介護に対する不安を抱いて日々の生活を送っている。地域で安心して暮らせる生活支援

付き高齢者専用住宅を整備しては。
町長 高齢者専用住宅は、県が検討している「高齢者居住安定確保計画」に登録したいと考えている。
新たな町営住宅の在り方を検討する際、高齢者福祉の視点も考慮する。

黒川浄斎場に通じる道路の新設を

町長 整備する方向で検討する

議員 下原・西風地区住民の生活道路で、浄斎場へ通じる町道下原線は、下原橋とその前後の幅員が狭く、

対向車に注意し通行している。

また、大雨等により度々通行止めにもされたこともある。

地域住民や浄斎場利用者の利便性と安全確保のため、浄斎場に通じる道路を別路

線で新設すべきでは。

町長 町道吉岡宮床線の改良工事を行った際の工事用道路を、浄斎場への道路として整備する方向で検討する。



雨もりを防ぐブルーシート

団地の高齢化対策

町長 地域全体での見守りが大事

議員 もみじヶ丘団地も高齢化が進み、世帯主が亡くなるケースが現れてきている。東京の団地では「孤独死」という、淋しい終末を迎えているケースがあり問題になっている。全国各地でも「孤独死予防センター」など対策に取り組んでいる。国も「孤独死防止推進事業」として平成17年度より取り組んだ。各地の団地も取り組みを始めたので、大和町もそろそろ取り組む時期だと思いが町の考えを問う。

町長 本町では「お元気訪問員事業」や「配食サービス事業」により、一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯の見守り・確認を行っている。

高齢者の孤立化をなくすには、地域全体での見守りが最も大事であり、最大の効果と考えている。今後「地域安心サポートづくり」の推進、「お元気訪問員」の充実などを図っていく。



議員 夫 早 田 上

公共施設の利活用を図れ

町長 企画展など、入場者増に努める

議員 原阿佐緒記念館の来館者やリピーターを増やすため、識者の協力を得てはどうか。

町長 入館者数は、19年度を100%とした場合、原阿佐緒記念館は96%。宮床宝蔵は116%である。両施設とも常設展示のほか、年2回の企画展を行いリピーターの確保に努めている。

る。

議員 中学生の課外活動に活用し、歌ごころや阿佐緒の恋愛などを学ぶのも良いのではないか。

町長 宮床中学校で年1回、地域学習の一環として利用している。歌ごころを育むため、原阿佐緒賞に大和・宮床中学校から作品が寄せられ、両校から毎年入選者

が出ている。

議員 宮床宝蔵も入館者が少ないが、「語り部」が居れば入館者が増すのではないか。

町長 指定管理者である宮床歴史の村保存会と協議し、企画展などでの実施を含めた可能性を検討していく。



本町がほこる原阿佐緒記念館

どうする黒高第二農場

町長 町民の意見を聞く



ほりごめ ひで お雄 議員

議員 黒川高校第二農場（吉岡土保田地区内）は長年、稲作、畑作、果樹、畜産の実習の場として活用されてきた。学科改編で、農業経営科は24年3月でなくなる。町で貸している2万6538㎡の土地はどうなるのか。

町長 黒川高校では、土地の返還を所管する県教育庁施設整備課に報告しているとのことだが、まだ、県から町に方向性は示されていない。

議員 これまで、保育所の子どもたちが農場でサツマイモ掘りや昆虫採取と幼児の環境教育の場となっている。また、吉岡南などの新住民が定住することにより、

貸農園の希望が見込まれる。第二農場は近場で土壌も良く、返還後は貸農園などの活用を考えてはどうか。

町長 貴重な町の財産なので、町民から幅広く意見を聞き、より有効活用が図られる手法を見出したいと考えている。

監視カメラで抑止を

町長 環境保全に努める

議員 吉田・宮床地区は不法投棄が多い。以前は、各地区に巡視員を委嘱し地域を見守っていたが、現在は業者に委託し不法投棄があれば回収しながらパトロールを行っている。

今は、巧妙かつ悪質な手法での不法投棄も見受けら

れ、行き届かない点も多々ある。不法投棄、あるいは高山植物、石などの盗難防止策として、監視カメラを設置してはどうか。

町長 他県で、リースの監視カメラの設置事例がある。監視カメラを導入するに当たっては、課題の整理に努

めたい。

当面は、住民との協働による不法投棄防止の強化を図り、新たな看板を重点地域に設置し、関係機関と連携しながら環境保全に努める。



多くの農業人を育てた第二農場

教育に新聞を「NIE」

教育長 各学校で始めている


議員 学校の授業で新聞を活用する「NIE」が、今年度から全国の小学校で全面実施される。新学習指導要領に、言語活動充実の具休例として新聞の活用があり、教育現場で注目を集めている。NIEを活用した、言語活動の充実へ取り組んではどうか。

教育長 吉田小学校が2年間、NIE活動に参加した。新聞だと時間をかけてゆっくり勉強に活用できる。吉岡小学校では、低学年の授業では習った漢字を新聞で

一口メモ

NIEとは
学校などで、新聞を教材として活用することです。

- ・ 中学校 (H24年度開始)
- ・ 高校 (H25年度開始)




伊藤 まさる 議員

自転車で走りやすい街づくりを

町長 必要に応じて整備を検討

議員 健康的で環境にやさしいという観点から、自転車にスポットが当たっている。震災でガソリンが思うように入手できない間、自転車が必要に役立ち、見直す動きが出てきた。

一方では、信号無視やスピードの出し過ぎ、携帯電話を使用など、マナーの悪化もある。自転車の利用しやすい環境をつくるため、



自転車でエコ通勤

歩行車道と自転車道の整備と充実を図っては。

町長 今後も標識の設置が必要な所は、公安委員会に要請をする。

議員 公共施設の駐輪場整備と、自転車運転のマナー向上対策は

町長 役場庁舎やまほろばホールなどに設置しており、来年度予定の交通ターミナルにも整備したい。マナー

向上策として、自転車安全利用五則の周知徹底を行う。

議員 宮城県自転車競技場周辺にサイクリングコースを整備しては。

町長 総合運動公園には約1kmの通路があるが、陸上競技場やテニスコートなどの各施設の間を通っているため、利用者の安全確保が難しい。

複式学級の良さは

教育長 温かい人間関係がはぐくまれる



議員 辰太郎 井 桜

議員 へき地学校や小規模学校に複式学級が誕生し異学年が同時に授業を受けている。学級の授業づくりは間接指導が充実することであり、直前の直接指導をする時間が最高に充実していなければならない。そして、生徒が自主的に学習できる複式学級をつくらなければ勉強する意欲が生まれない。複式学級の良さは、

教育長 きめ細かい指導により、それぞれの個性や適性に応じた個別指導が可能だったり、上級生と下級生の温かい人間関係がはぐくまれる良さがある。

しかし、学年により教材が違う場合、授業内容の組み立てが難しく、教師の直

接的な指導を受ける時間が不足するなどの問題点がある。

議員 複式学級で、生徒が主体的に学ぶにはどのような力が必要か。

教育長 自学自習ができる力が必要である。そのためには、学級での温かい人間関係と、家庭の協力を得ながら個々に応じた学習を行っていくことが大切である。

議員 複式学級の課題は、

教育長 授業内容の組立てが難しく、各学校の複式学級の授業の進め方や定期的な情報交換を行う機会を設けることが大事だ。また、教師の直接的な指導を設ける時間が不足するため、学習支援員の配置の検討、教頭・教務主任など学校全体での応援体制が必要である。さらに、少人数での活動で集団生活が送れないなどの課題もあるので、町内中学校区の小学校と交流促進を図る。



2年・3年生と一緒に授業（落合小学校）

防災無線受信機の配置を

町長 関係省庁と協議する

議員 「ただいま海面に大きな変化が見られません。大津波が予想されますので急いで高台へ避難してください」

「南三陸町の防災無線から流れる緊急避難放送は、大津波から多くの住民の命を救った。」

3月11日大震災でライフラインを寸断された中、情報を発信し続けた本町の防災無線の重要性を改めて実感した。その役割と機能、そして課題を検証し今後の整備計画に反映させては。

町長 防災無線設備本体には被害なかったが、長期間の停電と放送回数が増大でバッテリーが無くなり、13日・14日で放送が不可能になった。

議員 「室内では内容がよく聞こえない」など放送に対する意見があった。町にはどのような意見や要望が寄せられたのか。その解決策は。

町長 家屋の機密性が以前より増したため聞き取りにくい状況である。一方で、スピーカーの周辺世帯からは、騒音であるとの苦情が

多く寄せられている。町としては町民の皆様に正確な情報を的確に伝達する責務があり、放送に対する要望は理解している。平成28年を目途にデジタル化する方針が決定されており、現在使用しているアナログ方式の屋外子局や個別受信機は使用できなくなり、現時点での増設は二重投資の懸念がある。

議員 個別受信機を配置することで「聞こえない」「うるさい」など相反する要望に応えつつ、緊急時の情報伝達網が確保できる。

すべての家に個別無線受信機の設置するため、激甚災害地域として国へ強く要望すべきだ。

町長 デジタル化の計画策定が既に完了している。防災対策に生かせるよう関係省庁との協議を行い、システムの変更に反映したい。



たか 高 議員
ひら 平
とし 聡
お 雄

一般質問



住民の命をつなぐ防災無線

災害ゴミの総量と 処分方法は

町長 総量 4,500 トン
可能な限りリサイクル



議員 衛 勝 友 大

議員 今回の震災によって発生した災害ゴミの推定量はどれ位か。また、処分方法は。

町長 木材等の可燃物は1210トン、トタン・石膏などの不燃物が240トン、ブロックやかわらなどのガレキが2800トン、粗大ゴミが250トン、総量4500トンになる。

コンクリートブロック等は粉碎し砕石等に、木材は細かく破碎しチップ燃料等に、可能な限りリサイクル処理をして、できないものは最終処分になる。

議員 災害ゴミの無料受入れ期間は6月30日までだが、それまでにガレキの搬入は全て終了するのか。

町長 7月以降の搬入は、

一般質問

被災者の方から申し出をいただき対応する。

議員 災害ゴミ処理費用総額はいくらか。また、全額国負担になるのか。

町長 処理費用は7990万円と見込んでいます。負担割合が、はっきりしない部分もあるのですが、全額国庫負担になるよう国に要望していく。

被災企業の受入れに特例措置を

町長 前向きに検討したい

議員 震災と津波によって事業所が流され、安全な場所

で事業継続を希望する企業からの問い合わせが多数きています。すぐ利用できる区画整理地内との希望が多く、被害に遭い資金的な面



広い敷地がガレキでいっぱい（三ヶ内レクリエーション広場）

補助事業への影響は

町長 影響が出ないよう、要望活動を行った

議員 本町内で予定されている国直轄事業・補助事業を含め、公共工事は計画通り事業執行がされるのか。

町長 国・県補助事業に影響を及ぼさないよう、県町村会や宮黒町村会を通じて、国・県へ要望を行っている。国の対応は。

町長 国の査定後、速やかに実施設計をして工事発注を行い、復旧に向け対応したい。

からリースでの対応が求められている。本町に、賃貸で立地を希望する被災企業が進出しやすい特例措置を創設すべきではないか。

町長 今回の震災により、2社の被災企業が工業団地に進出を決定した。今回被災された企業を救済し、多くの企業が進出しやすいよう、賃貸で立地する企業に対応できる特例措置を検討する。

震災時の福祉避難所は

町長 ひだまりの丘で対応

議員 福祉避難所はひだまりの丘で一時避難の対応を

はかり、その後シヨートステイの施設等で対応することであった。東日本大震災の余震が続き、十分な体制の充実が求められる。ひだまりの丘は機能を十分に発揮したのか。また、要救護者の移動はできたのか。

町長 3月11日の震災後、「ひだまりの丘」には、5

40数名が避難、一般の方と同じ場所での避難生活が困難と思われる高齢者、乳

幼児・幼児を抱えての家族障害のあるお子さんなどは別の部屋にした。

要援護者は、「デイサービスセンター」ひだまりの丘に避難所を3月19日まで開設した。

自宅に戻れない方々には、介護保険施設でのシヨートステイが利用できるよう調整を図った。



議員 史博 ひろまき 藤 ふじ

洞堀川周辺歩道に安全柵を

町長 距離があり、設置は難しい

議員 洞堀川周辺(吉岡南)の歩道は、

- ・ 歩道入口の車止めで車イスが通れない。
- ・ 川沿いの安全柵が途中で切れている。
- ・ 車イスでは危険な段差。
- ・ 町道を横ぎる所に横断歩道がない、



車イスが通れない 安全柵が切れている歩道

などの問題がある。

庁舎が移転して1年。周辺に住宅が増え、散歩する人が増えている。また、車イスの方からも散歩コースとしてすばらしいので通行できるようにしてとの要望がある。改善すべきでないか。

町長 現時点では、転落防

止等車イスの安全な走行の対策が十分とはいえない状況であり、安全管理のため通行制限は止むを得ない。

議員 遊歩道は途中で安全柵が切れているが、設置すべきではないか。

町長 全部設置すべきとは考えない。

地域防災計画の見直しを

町長 部門ごとの分析をする



まつ かわ とし みつ 議員
松 川 利 充

議員 災害対策基本法では、国民の生命、身体及び財産を災害から守るため防災に關し、「地域防災計画」策定が定められている。「大和町地域防災計画」の見直しが必要ではないか。

町長 法律の規定に基づく「大和町地域防災計画」は定期的に検討を加え、必要があると認めるときは修正し、地震防災対策の確立に万全を期すものとされている。本町の地域防災計画は、宮城県地域防災計画と整合性を図る必要があるが、想定被害にかかわる部分以外での必要な箇所の見直しを早急に進める必要がある。特に、避難所のあり方、食料や燃料の確保などの事

一般質問

前準備や住民の安否確認方法・職員の行動計画や災害体制のあり方など、部門ごとに見直しを行い、現場や支援活動の行動マニュアルの作成とともに備蓄品の品目や数量の見直しを図っていく。



災害直後に開かれた災害調査特別委員会

学校危機管理マニュアルも見直せ

教育長 各学校長に見直しを指示した

議員 学校保健安全法では、児童生徒等の安全確保が図られるよう、危険発生対処要領を作成することを定めている。危機管理マニュアルの見直しが必要であると思うが。

教育長 法律に基づき各小中学校で、それぞれ独自のマニュアルを作成し、訓練を重ねるなどして非常時に備えている。今回の大震災から学び、今後にかす必要があることから、各小中

学校長に対して、避難計画を中心とする様々な事態を想定して、マニュアルにするよう見直しを指示した。今後児童・生徒の安全確保を今まで以上に指導していく。

大震災の教訓は

町長 現場ごとの判断が最重要

議員 東日本大震災は、2011年3月11日14時46分頃に発生し、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した。

被害の総括と教訓は。

町長 被害総額は関連費を除いた19億3400万円である。道路や学校等の公共施設は、今後災害査定の手続きを経て、順次復旧工事を行う。また、停電や水道の断水が長期期間になったことから住民の避難者が多く、大和町地域防災計画での想定より大規模なものとなつ

た。今後の対応は、現場ごとの判断が最重要と痛感した。

議員 地域防災計画（震災対策）の見直しの必要性はあるのか。特に、公共建築物（町有建築物・教育施設）の耐震性、自主防災組織行動結果は。

町長 大和町地域防災計画・震災編での想定地震は最大モーメントマグニチュードは7.8と想定している。今回の東日本大震災はマグニチュード9.0であり、想定地震をはるかに超える

ものであった。国・県の防災基本計画の修正の結果を見ながら整合性を図っていく。建築基準法が強化される可能性があるため、避難所として指定している建築物の重点的整備を図っていく。

自主防災組織の行動は、安否確認や炊き出し等、震災直後から活動され今後、全地区での組織の立ち上げを進めて行く。

議員 大震災にかかわる地方財政への対応のポイントは。

町長 国庫負担法に基づく災害復旧事業制度の活用と、事業の裏財源である起債制度を活用し、後年度の償還金額は交付税制度での算入が見込まれる。



議員 之 正 野 浅



地震で止まった時計と被害状況

町職員・関係者は非常食 自前で確保を

町長 **希望団体に^{あっせん}斡旋していく**



議員 志高 渡平

議員 数日間に渡り、電気、水道が止まり、避難所にも多くの被災者が避難した。備蓄していた非常食も1日で底をついた。町民2万5000人分の非常食を町で全部用意して置くことは、資金的にも労力的にも大変困難である。町職員、町関係者の役員、消防団等に有償で非常食を用意してもらい、その購入斡旋を町ではどうか。

町長 今回の大震災では道路、港湾、鉄道が被災により物流が滞り、食料品、生活用品が不足した。町職員、消防団等で非常食を備蓄することは有効である。各団体に呼びかけ、希望がある団体を中心に斡旋をしていく。

今般の地震での災害対応の検証は

町長 **新たな課題が明確になった**

議員 ここ数年、近い将来

宮城沖地震が必ず起きるということは、テレビ・新聞・各報道機関で盛んに報道されてきた。私も、ことあるごとに災害に強い町づくりを提言してきた。

町で配備した軽トラック小型ポンプ積載車によって、消防団は大きな力を発揮した。また、自主防災組織を作った所は、地域一丸となって協力し合った。反面、

今回の災害に対処・対応できなかつた面も多々あった

と思われる。どの様に反省し、対応していくのか。

町長 震災直後には電気、ガス、水道等のインフラが遮断され、数日間にわたり町民の皆さんは暗い中で大変不安な時を過ごした。その間、消防団の皆様には町内各地の巡回や、避難所への物資の運搬、盗難防止のための警らなど、町民にと

って大変心の拠り所になり、深く感謝している。地域防災計画の中でも対処できない課題が多くあった。今後は、整備すべき物品の確保

や食料の確保、発電機、暖房用の燃料や緊急車両の燃料の確保など、新たな課題が明確になった。これらをひとつひとつ検証を行い、災害に強いまちづくりに取り組んでいく。



これだけでは足りない

人事案件

6月定例会で決まりました人事案件は、次のとおりです。

固定資産評価委員

再任 根元泰夫氏 (76歳) 吉岡字東柴崎

【審議結果】 同意 賛成16 反対0

人権擁護委員

再任 鈴木隆司氏 (67歳) 宮床字八坊原

【審議結果】 同意 賛成17 反対0

7月13日の臨時会で決まりました人事案件は、次のとおりです。

農業委員 (議会推薦)

議会推薦(学識経験者枠)の農業委員として、3名の方を推薦しました。

堀籠貞子氏 (62歳) 吉田字金取北

大須賀弘子氏 (59歳) 宮床字下小路

谷田榮子氏 (62歳) 落合檜和田字遠浦

県会長 宮黒会長
北海道・東北町村副会長

就任

大和町議会議長の大須賀啓氏が、宮城県町村議長会会長(任期23年6月～25年6月)および、宮城黒川地方町村議長会会長(任期23年5月～25年6月)、北海道・東北町村議長会副会長(任期23年6月～25年6月)に就任しました。



宮城県町村議長会
会長 大須賀 啓 氏
(大和町議会議長)

県副会長 宮黒会長
就任

大和町監査委員の三浦春喜氏が、宮城県町村監査委員協議会副会長(任期23年6月～25年6月)および、宮城黒川地方町村監査委員協議会会長(任期23年5月～25年5月)に再任しました。



宮城県町村監査委員協議会
副会長 三浦 春喜 氏
(大和町代表監査委員)

町消防団長 就任



大和町消防団
団長 平渡 高志 氏
(大和町議会議員)

大和中学校 三年
鈴木 弘毅くん



大好き!!

大和町

宮床中学校 一年
秋山 志桜里さん



ふりふり中学生を応援して

私は2月に、町政施行55周年記念事業の大和町中学生議会に、中学生議員として参加しました。大和町議会本会議場で一般質問を行い、貴重な体験をさせていただきました。町長さんから、このような生徒に育ってほしいということ、直に聞くことができうれしく思います。そこで、私

は大和中生徒会総務のメンバーとして、「おはようございます」などのあいさつを練習する、声出しdayや学力向上の意識を高めようと、学習強化dayを実施しました。大和中のあいさつや学習面で向上し、活気ある学校づくりを目指していると思います。

大和町の中学生について...

中学校に入学して早くも5ヶ月になりました。中学校生活にも慣れ、様々な行事に参加する事も多くなりました。

6月4〜5日には郡中総体が行われました。他校の中学生とも交流をしました。私はバレーボールをしていて、スポーツの時の友達とも久しぶりに会う事ができました。そこでは、他校の先輩に

挨拶をされる事が多かったです。当たり前ですが、会った事もない私にでもしっかりと挨拶をしてもらってとてもうれしかったです。私も大和町の中学生として、しっかりと挨拶ができる人間になっていきたいです。最後に、七ッ森があつて自然がいっぱいで、町民の皆さんが優しい大和町がとても大スキです。

暑さに負けず

7月8日に、大和町グラウンドゴルフ大会が開かれました。みなさん元気いっぱいこのプレーをされ、一日中楽しく過ごされました。



編集後記

がんばれ東北

大震災から4か月、被災者は約10万人、うち約2万4000人は避難所で生活を続けています。比較的被害が少ないと思われる本町でも、全壊が40戸です。7月11日に東北地方は、平年より17日も早く梅雨があけました。日照りの年には凶作はならないらしいですが、今年は高温にも注意が必要です。本格的な暑い夏、体調管理に気をつけて乗り切りましょう。

広報編集委員 藤巻 博史

訂正とお詫び
168号の、15ページの見出しで誤りがありました。隣町から東大現役合格者 正 隣町から東大現役合格者

議会を傍聴してみませんか?

面倒な手続きはありません。1人でも団体でも傍聴できますので、ぜひお越しください。1階町民ホールでも視聴できます。

次回定例会は
9月5日(月)から
9月16日(金)までの予定です。

大和町議会事務局
☎ 022-345-7506
✉ gikai@town.taiwa.miyagi.jp

議会広報調査特別委員会

- 編集発行責任者
議長 大須賀 啓
編集委員
委員長 堀籠 英雄
副委員長 平渡 高志
委員 堀籠日出子
委員 秋山 富雄
委員 伊藤 勝
委員 藤巻 博史